



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第21回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会/
第28回四国地域医学研究会 合同学術集会 2021

事務局担当：高知医療センター総合診療科 澤田 努

全国での新型コロナウイルス感染症の流行も第5波まで流行し、その大きな波がひと段落したタイミングではありましたが、地方会の開催準備の段階では感染の流行の真っ只中であつたことから、今年度の地方会は初の完全オンラインでの開催を選択しました。大会長は高知大学医学部附属病院総合診療部 武内世生先生にお願いさせていただきました。大会長ご自身も「四国の交通網は未整備で、距離の割には移動に時間が掛かります。また、経済基盤の弱い小さな学会では、会場費などの負担も問題になる場合があります。完全オンラインですと、これらの課題を克服可能かと存じます。皆様に高知にお越しいただき、直接お会いする事ができないのは残念ですが、コロナ禍の現状をチャンスと捉え、新たなチャレンジとして開催できればと考えております」と考えられており、新たな時代における学会の在り方を考える良い機会とも考えて完全オンラインでの開催を選択しました。

まず、地方会への参加申し込みの方法は、Google の Forms を利用して、参加希望者がその Forms に必要事項を入力して確定ボタンを押せば、そのデータがエクセルのスプレッドシートに自動的にまとめられるという仕組みを用いました。

地方会事務局の業務用メールとして、Google の Gmail を利用し関係者には共同で閲覧、メール確認、送受信が可能で、共有すべき資料は全てデータ化して Google ドライブの中に収納して、必要時には、その URL をお知らせして各自でダウンロードしていただく形にしました。今回、地方会のプログラム・抄録集を紙ではなく、先述の共有フォルダからのダウンロードという形にしたため、製本・印刷費は全くかからずに済むことができました。

次に、地方会の会場は完全オンラインのためどこかに確保する必要はなく、地方会事務局としてオンライン会議の主催者側として必要なパソコンやマイク、大画面モニタ、スピーカーなどを設置する場所として、大会長のご厚意により、高知大学医学部附属病院のスキルズラボを無料で準備のための日程も含めて3日間お借りすることができました。地方会当日、実際にこの部屋に集まったメンバーは大会長の武内先生、事務局の私、地域医療振興協会スタッフ3名、シンポジウム座長の佐野先生、スキルズラボ責任者の高知大学医学部総合診療部瀬尾先生の計7名のみでした。

今回の地方会での参加証明証や専門医・認定医更新単位証の発行に必要な要件としては、以下の2つの条件が揃うことと設定しました。

①参加費の振込みが完了していること

②Webへの参加のログ確認（ログインの時に所属と名前とフルネームで記載を依頼しました）。

今回の地方会では、参加費は70名から振込みの確認がなされ、参加ログの確認も当日の地方会の録画面（録画については口頭で参加者に対して事務局から許可をいただきました）から取れました。事務局としては、この70名の方に対し地方会への参加証明証・単位証を送付する予定（学会に登録しているメールアドレス宛

てに PDF データとして添付する形) です。ちなみに参考までですが、2 日間にわたって地方会へのログイン参加者は 109 名でした。

今回の地方会で使用したオンライン会議のソフトは Microsoft 社製の「Teams」というアプリケーションを利用しました。四国地域医学研究会との合同開催ということで、地域医療振興協会のご支援もいただくことができました。高知への出張費や、今回のオンライン会議に必要なパソコンなどの機器も全て協会側の負担でやっていただきましたので、こちらについても四国ブロック支部としての経費は一切かかっておりません。この「Teams」という有償ソフトについても地域医療振興協会が主催者権限を有するもので、無償でお借りすることができました。

一般演題やポートフォリオ、シンポジウムの抄録については締め切りを令和 3 年 10 月末までとし、プレゼンデータの提出締め切りについては地方会開催の一週間前に設定をし、提出はメールへの添付または共有フォルダなどを利用していただくよう依頼を行いました。

まず、完全オンライン形式での開催ということもあり、移動の手間や時間的な余裕の意味合いもあつてか、一般演題の募集をしたところも最初は 25 演題のエントリーがありました。大会長とも相談をして、時間的に勘案してもやはり 20 演題までに抑えておかないと、大幅に時間をオーバーしてしまうことが懸念されたため、エントリーいただいた何人かの先生に直接交渉をして、演題を取り下げてくださいたり、別の学会に振り替えてくださいたりして、最終的には 18 演題まで絞り込むことができました。やはり、宿泊を伴う県外への学会出張などよりは、自宅や職場から気軽に参加できる完全オンライン形式の方が一般演題などにエントリーするには敷居が下がるように思いました。

大会長である武内先生は、長年にわたって高知県内における HIV 感染症患者さんの診断・治療に従事され、その臨床・研究成果を大会長講演としてご講演いただきました。1998 年に有効な治療法が開発されてからは、HIV 感染症は「死なない病気」に概念が変わってきたこと、現在では、健康な人とほぼ同じ日常生活を送ることができ、外来受診も 3 ヶ月に 1 回程度でよいことなど、最近のトピックスについて我々に分かりやすくご説明をいただきました。

また、今回の地方会のテーマについては、大会長にご相談をしてやはりコロナ禍における地方会であったため、「討論:with COVID-19 ～コロナ禍での総合診療～」に決定し、それに合わせてシンポジウムについても、新型コロナ感染症に深く関与された方々を選出することになりました。まずは、高知県内における COVID-19 感染症に関して、県のお立場から医療政策的な事(病床の確保、県のステージ決定への関わりなど)の中心として活躍され、またマスメディアでも毎日の感染者数の公表などをされている県健康政策部 川内敦文課長にご登壇をいただくことが決定しました。また、保健所の役割・活動についても、その第一線で対応された中央西福祉保健所の山本和栄保健師さんにもシンポジストをお願いしご快諾いただきました。臨床の立場からは、高知医療センターが新型コロナウイルス指定医療機関であり、多くの入院患者さんを受け入れて診療をして いたことから、中等症の入院患者さんに対する治療について高知医療センター総合診療科の矢野博子医師、重症で透析や ECMO、人工呼吸器などを併用するような症例について高知医療センター救命救急センター副センター長の盛實篤史医師にもご登壇いただくことが決定しました。

シンポジウムの座長には、感染症に造詣の深い佐野内科リハビリテーションクリニックの佐野良仁院長にお願いをしてご快諾をいただきました。各々のシンポジストから、日頃新型コロナ感染症患者さんへのマネジメントの実際、日々の業務における課題や苦労話など多くの有意義なご発表をいただくことができました。

また、2 日目に開催されたポートフォリオ発表会では、進行役として愛媛生協病院 家庭医療科 原徳高先生にお願いをしました。3 演題のエントリーがあり、今回は専攻医の先生方のみならず、指導医の立場からも宇和島市立宇和島病院の玉井院長先生からも演題の申し込みがあり、参加理由として医学部学生や研修医に

対するプライマリ・ケア領域の指導レベルを高めるためとのことで、事務局としてもおおいに感服させられた次第です。

一般演題についても、四国 4 県から各県支部長よりご推薦いただき、以下 4 名の先生方にお願ひしました。

JA 徳島厚生連 吉野川医療センター 総合診療科 (徳島県) 河南 真吾先生 : 5 演題

愛媛県立中央病院 総合診療科 (愛媛県) 杉山 圭三先生 : 5 演題

県立あき総合病院 内科 (高知県) 森尾 真明 先生 : 4 演題

綾川町国保陶病院 内科 (香川県) 川上 和徳 先生 : 4 演題

フロアからの質問は、基本的にオンラインソフトの中にあるチャット機能を活用しましたが、中にはオンライン参加されている方からの挙手(マークで表示されます)のパターンもありました。多くの活発な議論が交わされ、時間内で回答できなかつた質問については、先述のチャット機能を活用してご自身の発表終了後にも回答を入力されていました。こうした制限時間を越えても、発表演題に対してのディスカッションをチャットで継続できることもオンライン開催のメリットだと感じました。

オンラインのソフトが Microsoft 社製であったためか、オンラインで参加した方が Microsoft のユーザーID でログインしてなかつた場合に、データ共有が上手くできなかつたりした不具合が生じたりと小さなトラブルもありましたが、事前に発表データを全て事務局が受け取っていたこともあり、その場合は事務局側で発表データを共有するなどの方法で何とか凌ぐことができました。

四国ブロック地域医学研究会総会や日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部総会なども同じオンラインソフトを利用したことで、特に大きなトラブルもなくスムーズに終えることができました。2 日間にわたる初の試みであった完全オンラインによる地方会の開催でしたが、終わってみたらあつという間でした。

多くの関係者の皆さまのご協力により、こうやって無事に地方会を開催することができ、この場をお借りしまして心より御礼申し上げる次第です。また、地方会開催の準備段階から地方会当日に至るまで、手厚くご支援をいただきました地域医療振興協会のスタッフの皆さまにも改めて深謝の意を表したいと思ひます。

コロナ禍で生活様式の変容が求められる中、我々医療関係者もオンライン診療など ICT 技術を活かした新しいスタイルでの診療や学会などの在り方も考えていく時代に入ったと改めて実感しております。我々は、その技術を日常生活や日々の診療で十分に活用できるだけのスキルや知識を身に付けていく必要があると実感させられました。

来年度は、徳島県での開催となりますが、今回の地方会開催で学んだ幾つかのノウハウについては事務局の立場からも精一杯フィードバックさせていただきたいと思ひます。来年は徳島で是非またお会いしましょう！

【お問い合わせ先】

合同学術集会事務局

〒781-8555 高知市池 2125 番地 1

高知医療センター総合診療科 澤田 努

TEL 088-837-3000 (代)、E-mail: pc4shikoku@gmail.com

★2 第21 愛媛プライマリ・ケア研究会を開催

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

2021年8月31日18:30~20:30 第21回愛媛プライマリ・ケア研究会を開催しました。今回もコロナ感染禍にてwebでの開催となりました。リモートではありますが、例年と同様に一般演題、教育講演、特別講演と盛りだくさんで実施しました。活発なご討議が聴講からのチャットを活用して行われた。参加者は、愛媛のみならず四国、あるいはそれ以外の県からもWebにて総勢70名が参加されていました。また本会は、愛媛大学大学院社会医学コースフォーラムにも指定されていたことから愛媛大学医学部の大学院生の参加も見られました。

一般演題は、座長として西予市立野村病院副院長の大塚伸之先生にお願いし、以下の2演題の発表がなされました。

1) 糖尿病性舞踏病の1例

愛媛大学医学部附属病院総合診療科：

菊池 明日香 先生

2) 新型コロナウイルス感染症の軽症者を受け入れる宿泊療養施設において、安定した施設運営に貢献できた事例

愛媛県立中央病院総合診療部：青木 一成 先生

次に、教育講演は、座長として愛媛大学医学部地域医療学講座助教：二宮大輔先生にお願いし、以下の講演がなされました。

教育講演

「ヒト中心の医療-いきるを支える患者のみかた-」


演者：五十野 博基 先生

社会医療法人石川記念会 HITO 病院総合診療科

特別講演では、日本プライマリ・ケア連合学会四国支部支部長として常日頃お世話になっている高知大学医学部家庭医療学講座教授の阿波谷 敏英先生にお願いし「地域医療を育てる～次世代の人材育成」と題してご講演をいただきました。高知県の中山間地などにおける地域医療を担う人材育成に関して幅広い側面からのご講演でした。後継者を育成には、地域で育てるのが一番、それには地域の医療機関を大学のキャンパスとしてそこで地域医療を体験させることが重要ということで、そこでの教育の工夫についてとても参考になるお話でした。


当日の一般演題および特別講演は、プライマリ・ケアにふさわしい熱のこもった内容であったと思われま。皆さんも是非、日ごろの疑問や興味深い症例について本研究会を通じてご発表頂ければと思います。次年度も本研究会は開催される予定です。是非またのご参加をお願いいたします。

第21回愛媛プライマリ・ケア研究会
-愛媛大学大学院社会医学コースフォーラム-

日時：2021年8月31日18:30(18:00~入室可能)~20:30
会場：Webexを使用したオンライン形式にて開催 参加料：無料
共催：愛媛プライマリ・ケア研究会 愛媛大学医学部地域医療学講座
URL：<https://bit.ly/3yaSE11> 
*参加費不要

プログラム

●一般演題
座長：西予市立野村病院副院長：大塚 伸之 先生
1) 糖尿病性舞踏病の1例
愛媛大学医学部附属病院総合診療科：菊池 明日香 先生
2) 新型コロナウイルス感染症の軽症者を受け入れる宿泊療養施設において、安定した施設運営に貢献できた事例
愛媛県立中央病院総合診療部：青木 一成 先生

●教育講演
座長：愛媛大学地域医療学講座助教：二宮 大輔 先生
「ヒト中心の医療-いきるを支える患者のみかた-」
演者：五十野 博基 先生 

社会医療法人石川記念会 HITO 病院総合診療科

●特別講演
座長：愛媛大学地域医療学講座教授：川本 龍一 先生
「地域医療を育てる～次世代の人材育成」
演者：阿波谷 敏英 先生
高知大学医学部家庭医療学講座教授

* 日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医更新のための単位 2単位 認定薬剤師の認定単位 1単位 (800字以上のレポート提出が必要です。)
* 愛媛大学 大学院生は、このコースフォーラムに参加し、レポート提出することにより、最大5点。また、発表した学生は演習(発表科目)として、5点が得られます。
レポート提出：9月7日締切 okayama.yoko.my@ehime-u.ac.jp (講座秘書 岡山)まで
(問い合わせ先) 〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53
愛媛大学医学部地域医療学講座西予地域サテライトセンター 担当：川本龍一
TEL 0894-72-0180 FAX 0894-72-0938

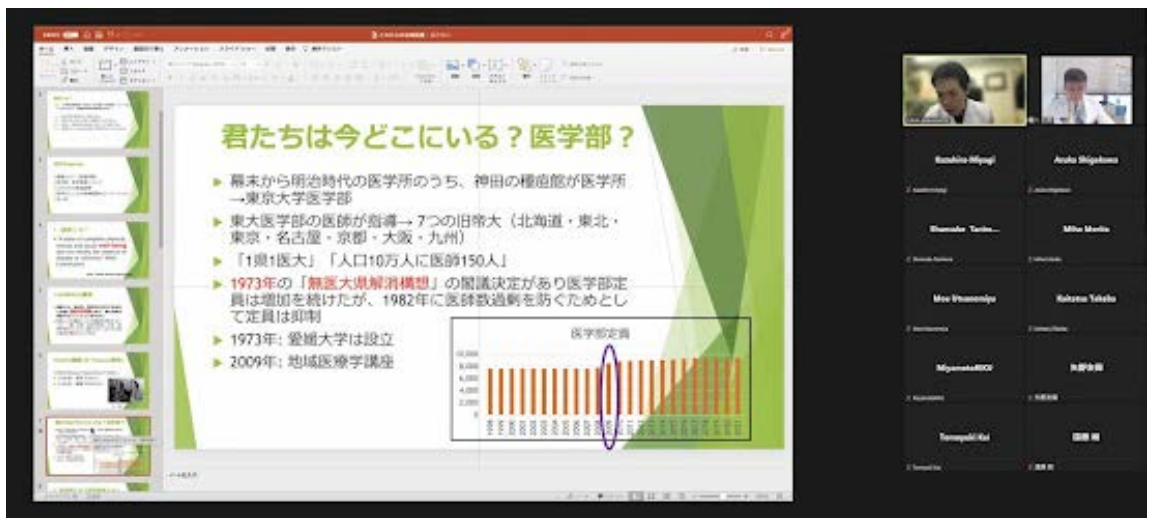
★3 地域医療ワークショップ

愛南町国保一本松病院副院長：嶋本 純也先生

(2021年11月18日12:00~12:35: Web講演)

地域枠1年生を対象として、自治医科大学を卒業され愛南町で活躍されている本学会会員でもある

嶋本純也先生より「地域医療について」のお話をいただきました。予防から治療、リハビリテーションまで住民の身近な存在として活動することの重要性を強調された。患者さんも外



来で診るときの視診、それは呼び入れて診察室に入るときのしぐさ、服装、履物、顔色など多くの情報があり、それらが診断の参考にあることも話された。学生実習は年中受け入れており、いつでも歓迎とのことであった。

★4 PC教育の一環として日本PC連合学会の大原昌樹先生、加藤正隆先生による学生向けの講義

綾川町国民保健陶病院院長：大原 昌樹先生

(2021年11月18日15:20~16:20: Web講義)

大原先生が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて見取りも含めて幅広い領域を具体的な事例を交えながらわかり易く解説していただきました。今回の講義では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネージャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。先生の温かなお人柄が現れる内容の講義でした。

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

(2021年11月19日、15:20~16:20: Web録画)

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。お忙しい中、PPTの録画を用意していただきました。最初の画面ではいつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿が映し出され、先生の情熱が伝わる講義でした



★5 秋のポートフォリオ発表会

愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

11月28日、地方会2日目の朝、ポートフォリオ発表会が開催され3名が発表しました。

一人目は高知家総合診療専門研修プログラム、佐川町立高北国民健康保険病院の田邊義貴先生による「家族志向のケア」のポートフォリオ発表でした。高齢で誤嚥性肺炎、嚥下障害の患者さんの今後のケアについて当初は家族間で不一致だった方向性を整えていくことができた症例でした。

二人目は宇和島市立津島病院院長、玉井正健先生による「プロフェッショナルリズム」のポートフォリオでした。高齢、脳梗塞急性期治療後に肺炎、腎盂腎炎を発症、さらに急性腎障害を続発して除水・透析を導入した症例でした。玉井先生はすでに大ベテランでありながら、実習にやってくる学生に総合診療の本日を伝えるためには自らポートフォリオを作り、発表することが必要と感じて今回のポートフォリオ発表会に応募されました。参加者の間にはその姿勢にプロフェッショナルリズムを感じた方もいたでしょう。

三人目は徳島大学AWA広域総合診療専門研修プログラム、HITO病院総合診療科の近藤啓介先生による「終末期のケア」のポートフォリオでした。救急で入院した方が肺癌末期で積極的治療適応がなく、本人が希望する自宅退院へ向けて早急に関係各所と調整をとった症例でした。自宅で過ごしている間に在宅訪問診療を行いました。再入院して亡くなった後に、遺族から感謝の声を掛けられました。

オンライン開催でチャットや発言を組み合わせ活発な議論が交わされました。発表者のみなさん、参加者のみなさん、事務局のみなさん、ありがとうございました。

次回は春のオリエンテーションに合わせて専攻医ポートフォリオ発表会を企画いたします。たくさんの応募をお待ちしています。

